

銅輸出、外需回復を背景に増加

自動車は生産が小幅増、販売は大幅増も住宅工

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

■国際概況
 四月前半は財新発表の三月中国PMIの悪化や、欧米諸国と中国の関係悪化懸念、中国プレ

ミアムの昨年十一月以来の水準への低下やLME/SHFE在庫の増加から、中国需要懸念が台頭するなどの悪材料もあったが、NYダウが三七三ドル九八セント高の三万三、五二七ドル一九セントで過去最高値を更新、三月の米雇用統計が市場予想を上回って良好であったことを好感しLME銅相場はUP、四月十五日時点で九、〇一ドル(セツル)と月初価格より一六〇・五ドルUPの前半締めとなった。

後半は世界的な新型コロナウイルスの変異種の感染再拡大に対する懸念や、これを受けた株式市場の軟調な足取りなどのマイナスマaterialもあったが、三月の小売売上高は前月比九・八%増と市場予想(六・一%増)を上回ったこと、チリ鉱山労働者スト懸念を受けた供給引き締めを好感しLME銅相場はUP、四月末日現在、後半スタート価格から八〇二・五ドルUPの九、九九〇ドル。四月スタートの銅建値は一八八万円。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)
 一一・八四→一〇八・八九 (円)。

◆自動車生産台数
 生産動態統計によると、三月の自動車生産台数は前年比四・五%増の八二万六、九二八台。輸出は三・四%増。

◆自動車販売台数
 日本自動車販売協会連合会によると、四月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二二・二%増の二一萬〇、三三三台。

◆新設住宅着工件数
 三月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比一・五%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比九・〇%の増加となった。

新設住宅着工戸数は七一、七八七戸で前年同月比一・五%増と、二一カ月ぶりの増加。新設住宅着工床面積は五、八三八千㎡で前

年同月比〇・二%減と、二カ月連続の減少。

季節調整済年率換算値では八八〇千戸で前月比九・〇%増と、三カ月連続の増加。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が一・六%増の六万二、三七八t、スクラップが一〇七・二%増の五万八、三九五t。

輸入

輸入は電気銅が前年比未発表の一、二八八t、スクラップ二八・九%増の九、九四六t。

■前月の国内指標

三月の伸銅品生産量は六万九、六一〇トンで前年同月比一三・五%増と、三カ月連続の増加となった。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比〇・九%増の五万九、三〇〇tであった。

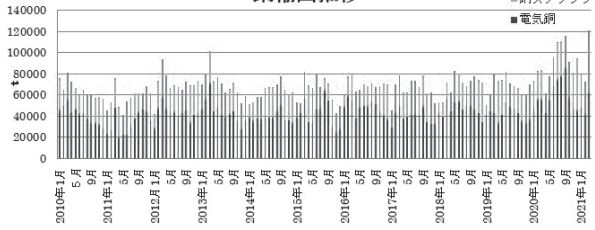
■国内概況まとめ

【自動車生産】
 生産動態統計によると、三月の自動車生産台数は前年比四・五%増の八二万六、九二八台。輸出は三・四%増。

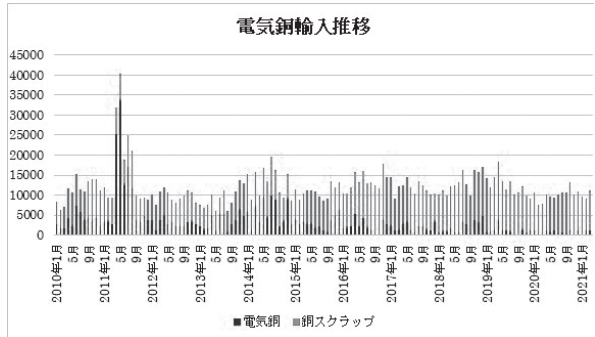
【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、四月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二二・二%増の二一萬〇、三三三台。うち乗用車二六・三%増、貨物一・七%増、バス四二%減。(六面へ続く)

銅輸出推移



電気銅輸入推移



LME銅・米経済、景気対策と中国の景気動向がカギ 為替予想

(四面より続く)

【住宅着工戸数】

三月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比一・五%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比九・〇%の増加となった。

【伸銅品生産】

三月の伸銅品生産量は六万九、六一〇トンで前年同月比一三・五%増と、三カ月連続の増加となった。

自動車と半導体の好調が継続しており、銅条・黄銅条・青銅板条は高水準。黄銅棒は二カ月連続の前年比プラスと水準を上げている。銅管はマイナス幅が縮小した。

銅条は前年同月比二二・四%増と六カ月連続プラス。単月の生産としては、二〇〇七年以来の多い量となった。引き続き車載向けを含めて半導体の需要が好調である。半導体不足や自動車減産などの話題が上がるが、自動車生産台数の増加スピード以上に、銅条の生産量が増加している。

黄銅棒は前年同月比一五・二%増加と二カ月連続のプラス。タッチレス水栓需要増加と設備用バルブも回復、自動車向けも好調。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比〇・九%増の五万九、三〇〇t。

うち国内一%増、輸出が四・二%減。

【輸出】

電気銅輸出が一・六%増の六万二、三七八t、銅スクラップが一〇七・二%増の五万八、三九五t。

【輸入】

電気銅が未発表%の一、二八八t、スクラップが二八・九%増の九、九四六t。

【見通し】

・三月の自動車生産が四・五%増。四月国内販売台数が前年比二二・二%増。生産微増は半導体不足よるものと認識。販売は大幅増。

今後生産の動向が販売数量に響くか注視。

・三月の伸銅品生産量は六万九、六一〇トンで前年同月比一三・五%増と、三カ月連続の増加となった。

自動車と半導体の好調が継続しており、銅条・黄銅条・青銅板条は高水準。黄銅棒は二

カ月連続の前年比プラスと水準を上げている。銅管はマイナス幅が縮小した。

・日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比〇・九%増の五万九、三〇〇t。うち国内一%増、輸出が四・二%減。

国内が久しぶりのプラス、輸出はマイナス幅が縮小。内外ともに持ち直しが続くか注視。

・銅輸出は、電気銅・スクラップともに外需回復から増加。

・銅輸入は、電気銅・スクラップともに内需回復から増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が一〇二万円から一〇八万円まで急騰したため、発生が少なく在庫は希薄。

需要面に関して、半導体不足に伴う自動車需要の減少傾向が言われているが、現状、生産は増加傾向にある。しかし原料高値安定のためメーカーはスポット買いに徹しており需給は安定気味。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向に左右される。

①に関しては

四月二十八日のFOMC声明で雇用の最大化と長期的な二%のインフレ達成を目指し、それを達成するまで金融緩和スタンスを維持すると発表した事、バイデン大統領は七月の独立記念日までに一億回近くのワクチン接種を提供するという新たな目標を発表したことから、米景気は回復傾向が続くのではないかと、米景気は回復傾向が続くのではないかと。

②に関しては

国際銅研究グループ(ICSG)が昨年の中国精製銅輸入は三八%増加、四四〇万トン超過と過去最高を記録したこと、二〇二一年一〜三ヶ月期の中国の経済成長率が一八・三%と、四半期の数値公表が始まった一九九二年以降で最高を記録したことから、順調に回復するのではないかと。

これらを踏まえた五月の銅価格は二万〇、〇〇〇〜二万二、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇七円〜一一〇円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては一一五万〜一二五万円程度と予測している。